



新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、日頃より地域連携室「あざれあ」の活動に対し、ご理解ご協力いただき厚くお礼申し上げます。
今月は、東広島地区医師会 緩和ケア部会の2つの活動について、ご報告いたします。



「スウィート緩和ケア症例検討会」 ゲストは赤松真人さん

◆ 赤松真人さん 胃がん体験を 専門職に語る

2019年12月12日（木）、広島東洋カープの新コーチに就任された赤松真人さんをお迎えし、「つなぐ・支える」緩和ケアと題してスウィート緩和ケア症例検討会を開催しました。当日は、医療・介護関係者101名が参加しました。

東広島地区医師会 緩和ケア部会の高橋宏幸先生と、東広島医療センター 緩和ケア認定看護師の藤尾亜由美さんの進行により、赤松さんご自身の言葉で、胃がんと向き合ってきた道のりについて、具体的に丁寧に語っていただきました。



赤松さんの「当たり前が当たり前でなくなった時、普通に生きていることの有難さ、大切さを感じた。」「仲間に普通に接してもらえることが、一番うれしかった。」という言葉に、専門職として患者に関わる上でのヒントをもらった気がします。また、「抗がん剤治療に甘えている自分がある。」「もっとトレーニングできたはず。」という言葉からは、野球選手としてのプロ意識を感じました。終始にこやかに、また言葉を選びながら語られる姿から、がんと共に歩む赤松さんの真の強さが伝わってきました。参加者の明日への力につながる研修会となりました。



12月イベント型「こころの駅舎」

◆ 広島県健康福祉局がん対策課 本家好文先生をお招きして

がん患者さん・家族・支援者のつどい「こころの駅舎」講演中心のイベントを、2019年12月19日（木）に、本家好文先生をお招きして開催しました。

今回先生は、人生会議（ACP）の重要性について、様々なデータや医師としてご経験、また担当された症例を交えながら、わかりやすくご講演くださいました。

一人一人が「何を大切にしたいか」「いかに生きるか」を考えるきっかけとなりました。参加者は、より良い人生を生きるために、今後大切なご家族や医療者と、人生会議を重ねていくことでしょう。

